



はじめよう!
楽しもう!
農業体験

第3章

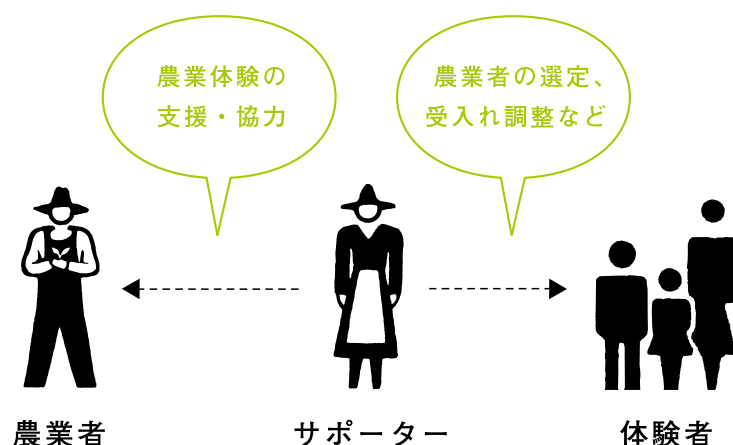
農業体験サポーター



農業体験サポーターの役割

農業体験は、体験希望者が一度に100人、200人と多かったり、農作業の繁忙期と体験時期が重なったりすると、受入れを行う農業者だけでは対応しきれない場合が多くあります。そうした際に体験当日や事前準備などで受入れを支援するのが、農業体験サポーターの役割の一つです。

また、体験を希望する学校や団体に、受入可能な農業者を紹介するコーディネーターの役割を果たすこともあります。特に、受入れを始めたばかりの農業者は知名度も低く、体験者を募集する機会があまり多くありません。反対に、初めて体験をする人はどこを選定するのが適切か分からないことが多く、そうした場合にサポーターの調整機能はたいへん重要となります。



サポーターは、市町村が窓口となった組織、教育を専攻する大学の学生が中心となっている組織、JAなどの生産者団体、食に関するNPO法人、地域の有志グループなど様々な形態があります。

また、サポーターによっては独自の取組として食育に関する指導を行うこともあり、農業体験以外にも幅広い活動をしている場合が多くあります。ここでは、積極的な活動を続けているサポーターの団体等を紹介します。

サポーターになることで、農業者以外の人も積極的に農業体験に関わることができるようになり、農業や農村への理解を深めることができるようになります。サポーター同士が食育や農業体験についての共通認識をもち互いに協力しあうことで、食育の取組をさらに推進することにもつながります。ぜひ興味のある方はサポーターとして地域で活躍してみたいかでしょうか。



旭川市

北海道教育大学旭川校の学生が受入れ農業者をお手伝い
将来役立つ実践教育として田畑を教室に子どもたちと触れ合う



旭川市では、市内の小学校5・6年生を対象に市民広報などで農業体験の参加を呼びかけています(学校ごとの受入れは行っていません)。定員は25人程度で、少人数に分かれた班ごとに受入農業者が決まります。当日農業者を手伝ってくれるサポーターは、北海道教育大学旭川校の学生たち。教員養成課程の1年生が参加します。

もとは受入農業者と交流のあった教育大教員がゼミの学生に呼びかけて始まった有志の取組ですが、2006(平成18)年からは授業科目「教育フィールド」の実習で行うサポーター活動として定着しています。

サポーター 紹介

北海道教育大学 旭川校の学生



メンバー 毎年約15名
(教員養成課程科目「教育フィールドⅠ(地域教育支援活動)」を受講する1年生)

メンバーの確保方法「教育フィールドⅠ」を受講

上記受講生のうち、子ども農業体験塾を実習先として選択した学生が各受入農業者に配置されます。5、6、7、9月に1回行う通常体験(3時間程度の農作業)と8月にある1泊2日のサマーキャンプ、11月の収穫祭・修了式に出席。サポーターとして受入農業者の補助、小学生の安全確保や農作業の指導を行います。

活動内容

- 受入農業者の補助 道具等の運搬、参加したい小学生の取りまとめ
- 小学生への指導 田植え、野菜の播種、稲刈りなど
- 小学生の安全管理 危険な場所の注意喚起、刃物や火の扱い方への配慮
- 毎年全班合同で行うサマーキャンプ(8月)でのキャンプファイヤーのゲーム企画
- 収穫祭(11月)での体験報告発表のスライド作成と発表
- 班の取りまとめ

特記事項

農業者が大学に向いて説明会、終了後の反省会も
年度の初めに受入農業者が大学に向いて説明する場を設け、班ごとのミーティングを行います。農業体験を行う理念や当日の注意点などを話し、学生各自に心構えをしてもらいます。ある農業者では事前に農作業をレクチャーし、学生が子どもに教えやすい環境作りを行っています。体験終了後に反省会を行うなど、コミュニケーションを密にしています。

(※平成23年度の取組)

サポーターの声

作業に飽きないよう
集中させる難しさが将来のいい勉強に

子どもたちと一緒に有意義で楽しい時間を過ごすことができました。子どもにわかりやすい指示の出し方を工夫する一方で、作業に飽きないよう集中させることが難しく、教員を志す立場として勉強になる体験でした。

ここに連絡!

旭川市農政部農政課経営支援係

電話 0166-25-7417